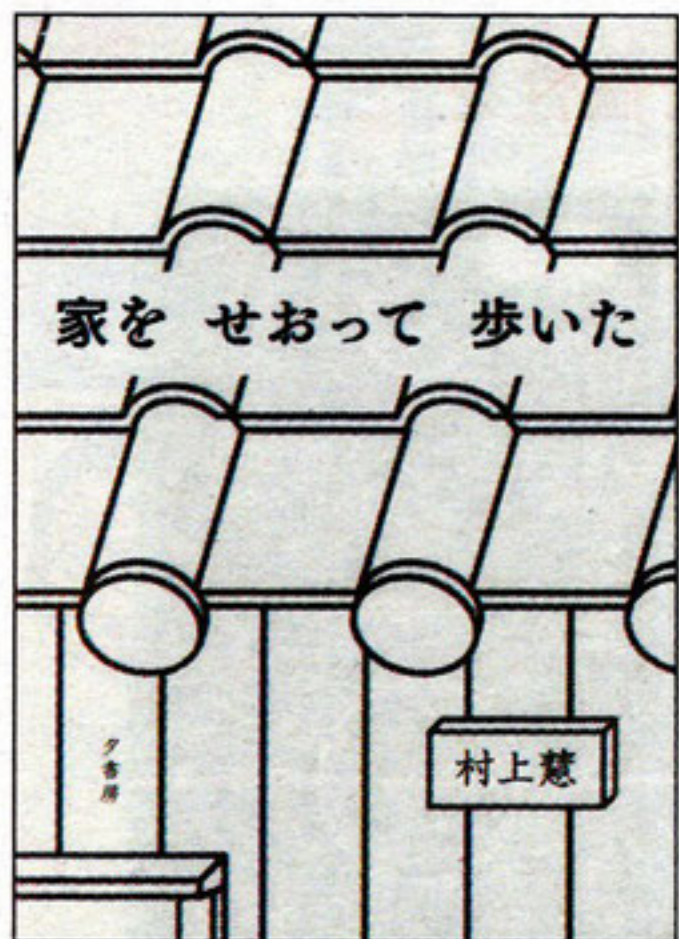


# 家という概念からの脱却

## 『家をせおって歩いた』

村上慧<sup>むらかみさとし</sup>／著、夕書房<sup>せき</sup>、2160円



人ひとりが入れるくらい  
のサイズの、発泡スチ  
ロールで造った家。若い  
美術家である著者は、「定  
住」「家」という概念があ  
るから社会が窮屈<sup>きゆうくつ</sup>なのだ  
と考え、閉じた生活から  
の脱却を試み、発泡スチ  
ロールの家を担いで日本  
中を移住して歩きます。  
この本はそんな旅の日記

です。

毎日泊めてくれる場所  
を探しながら、出会った  
人々とのやりとりに多く  
を感じ、時に社会に対し  
て激しくいら立つ——著  
者の考えと感情の揺れ  
が、毎日の出来事とから  
まり合いながら、あふれ  
るように情熱的につづら  
れています。

この本を読むことがひ  
とつのアート体験であ  
り、旅の気分を味わいつ  
つ、社会問題を考える。  
何より「読むのが楽しい」  
という、何層もの複雑な  
面白さを持った本です。

東京・パン屋の本屋

花田菜々子<sup>はなたななこ</sup>